

令和３年度第３回秋田県地域公共交通活性化協議会の概要

日 時 令和３年１２月２１日（火） 午後１時３０分～午後３時３０分
場 所 各委員の職場・自宅等からのリモート開催
参 集 委員２４名中１９名参加（５名については後日書面協議）

【概 要】

１ 開 会

委員２４名中代理を含む１９名が参加し、残り５名についても後日の書面協議について承諾があり会議が成立

２ あいさつ

小松・県交通政策課長があいさつ
小松課長が議長代理として議事進行

３ 協議事項

（１）生活交通確保維持改善事業の事業評価について

資料４に基づき、事務局が説明

《質疑等》

議長

説明についてご意見等あるか。

玉田委員（秋田運輸支局）

事業の今後の改善点として、輸送人員の減少に歯止めがかからない路線については、利用者や沿線市町村、交通事業者等の関係者を交え、路線再編等の検討を行うとあるが、輸送人員の減少だけでなく、乗務員不足が、バス、タクシー、鉄道のみならず、トラックも含めた運輸・自動車業界全体の深刻な問題となっている。乗務員不足などの状況も踏まえながら次年度以降の検討をしていただきたい。

また、利用促進については、乗っていただかなければ路線を維持することはできない。路線がある地域では高校生などに積極的に公共交通を利用してもらうような意識の醸成を図る必要がある。

議長

乗務員不足への対応や利用のさらなる掘り起こしについては、本計画でも大きく取り上げている部分であり、関係者一丸となって進めていく。

また、国の制度改正により、本計画と地域間幹線系統の事業評価は一体不可分となっており、そういった面でもしっかりと取り組んでいく。

議長

他にコメント等なければ事業評価について了承いただいたものとしてよろしいか。(異議なしとの反応)

(2) 秋田県地域公共交通計画の素案について

資料1～3に基づき、事務局が説明

資料1の前半部分(1～4)を事務局から説明

《質疑等》

議長

ここまででコメント等あるか。

玉田委員(秋田運輸支局)

課題6の乗務員不足について、バス、タクシー、鉄道のみならず、トラックも含めた運輸・自動車業界全体で乗務員が不足していることから、運輸支局でも高校を訪問し、校長先生にもお願いしているが、成果は上がっていない。

運輸支局単独の取組ではなかなか難しく、県や教育委員会などと連携して取り組んでいけば良いと考える。学校の先生、特に進路指導担当の先生に社会的な意義を認識していただき、先生から生徒へ進路として勧めていただけるような形としていきたい。具体的な取組を進めていく必要があり今後ともよろしくお願いしたい。

議長

具体的な施策については、後半の説明で触れるが、P215などにも記載のとおり、県も事業者、国とともに実施主体となり教育委員会などと連携しながら、今までとは違った取組を検討してまいりたい。

他にコメント等あるか。(なしとの反応)

資料1の後半部分(5～9)を事務局から説明

《質疑等》

議長

施策等について説明があったが、ここまででコメント等あるか。

それでは、市町村から順に伺いたい。大館市はどうか。

渡部委員代理(大館市都市計画課)

当市の地域公共交通も大変厳しい状況にあり、どうやって利用を増やしていくかが課題となっている。この計画をもとに県や事業者と連携して取り組んでまいりたい。

議長

続いて秋田市はどうか。

栗林委員（秋田市交通政策課）

利用者から便数が減ってきて不便になったという声が聞かれ、市議会でもそういった意見が出されているが、その大きな要因は乗務員不足にある。乗務員を確保できないために減らさざるを得ないという状況がある。本計画は県が主体となり策定していることから、県全体として乗務員確保に向けてどう取り組んでいくのかが非常に重要であり、引き続きご協力をお願いしたい。

議長

公共交通のみならずトラックなど他の産業でもリクルート対策は非常に難しい問題である。これをやれば大丈夫という答えがないものであり、これまでも各交通事業者、業界団体、運輸支局がいろいろ取り組んできたもののなかなか解消できない難しい課題である。どういうことができるのか皆様のお知恵をいただきながらできることは最大限やってまいりたい。

横手市はどうか。

森田委員（横手市経営企画課）

基本目標として示された6つは、5年間の土台を作っていくものとの説明があった。どれもハードルが高い目標ではあるが取り組んでいかなければならないものだと感じている。

議長

現在の公共交通網をどう維持していくかが計画の基本思想ではあるが、数値目標は高めに設定しており、これまでとは違う連携などにより取り組んでいく必要があると認識している。皆様と連携して取り組んでまいりたい。

バス協会はどうか。

齋藤委員（秋田県バス協会、秋田県観光連盟、羽後交通）

公共交通の維持・確保について、事業者と県、市町村、利用者などが一丸となり取り組むということを明確にさせていただき、交通事業者として大変ありがたい。今まで様々な支援をいただきながら路線の維持に必死に取り組んできたが、今後踏み込んだ議論を行いながら、お互いに良い道を探っていけるような体制となることは喜ばしいことである。

先ほどから話が出ているように、今路線の維持に当たり一番ネックになっているのが乗務員の確保である。この点についてもいろいろとご指摘をいただきながら交通事業者としてしっかり取り組んでまいりたい。

議長

行政や交通事業者が取り組むのはもちろんのこと、地域部会において、利用者代表の方からも、利用者側もしっかり使う意識を持つことが重要とのご意見をいただき、計画での位置づけに対して背中を押していただいた。今後もそういった意識で取り組んでいく必要がある。

続いてハイヤー協会はどうか。

佐藤委員代理（秋田県ハイヤー協会）

（リモートの接続不通のため会議終了後に別途聞き取り）

議長

レンタカー協会はどうか。

藤島委員代理（秋田県レンタカー協会）

レンタカーについて、計画では重要な二次交通として取り上げていただきありがたい。

資料1の「1 計画の目的」にある“地域公共交通のあるべき姿”が抽象的であり、具体的にお示しいただきたい。

また、さきほど地域部会での利用者代表の意見が大分反映されたとの話があった。利用者の意識改革も重要だが公共交通を利用しない理由など利用者の声をさらに汲み取ってほしい。

加えて、既にお考えと思うが、将来的に人口減少がどんどん進行していく中で、単一の交通機関だけで考えていくことはもはや不可能であり、まちづくりを含めてトータルとして方向性を探っていく必要があるのではないか。

議長

“地域公共交通のあるべき姿”については、やや抽象的ではあるが、資料1の「5 基本理念・基本方針」に記載させていただいている。さきほど単一の交通機関だけでは難しいとのご意見をいただいたが、モードだけでなく主体にも当てはまる。行政・事業者・利用者を含めた地域が支え合い、また、支えられる側の地域公共交通が地域に活力を与える存在でなければならないと考え、目指すべき姿としては「行政・事業者・地域が連携して支え合い、地域の活力を育む地域公共交通」としている。また、その基本理念の下3つの基本方針を設定している。

今後の公共交通の利用を増やしていくには利用者の声を聞くことが必要であるという点については、こちらでも重要であると認識しており、ご指摘の点も踏まえて公共交通施策を進めてまいりたい。また、そのためにしっかり連携してまいりたい。

続いて秋北バスはどうか。

棚谷委員代理（秋北バス）

齋藤会長がおっしゃったご意見と同じであるが、一点、基本目標に「新たな技術等の活用による、誰にとっても使いやすい地域公共交通への進化」と記載がある。地域公共交通のデジタル化はまだまだ先の話だと思っていたが、地域連携ＩＣカードの導入やオープンデータ化が身近なところまで来ていると感じている。デジタル化の推進を計画に明記いただいたことは非常に良いことだと感じている。

ただ、思った以上に人口減少のスピードが速く、我々の肌感覚では地域公共交通を維持していくことは並大抵の事ではないと感じている。地域間幹線系統もいくつかの系統が補助対象から落ちてしまうのではないかと懸念がある。県、市町村からのご協力・ご支援を今後ともお願いしたい。

議長

デジタル化について、当然我々も支援していくが、バス事業者の創意工夫や意欲が大きく左右するものであり、是非引き続き連携してデジタル化の取組を進めてまいりたい。

人口減少のスピードについては、この一年間で１万人以上減っているという数字をニュースなどで目の当たりにし実感しているところであるが、他方で免許返納者も年々増加する中でそういった方を取り込みつつ、県全体で利用促進を行い、どのくらい利用が掘り起こせるのかをこの５年間で取り組んでみるということも大きな試みの一つである。利用促進をやってみた結果を踏まえてその次の５年間にどうすべきかを検討していく必要がある。引き続きご協力をお願いしたい。

先ほど齋藤委員にバス協会としてご発言いただいたが、羽後交通の立場として別のご意見等あるか。（なしとの反応）

秋田中央トランスポートはどうか。

金野委員代理（秋田中央トランスポート）

弊社はマイタウンバスの運行が中心であり、具体の施策については運行主体となる市町村が中心として進めていくこととなるが、弊社も積極的に協力してまいりたい。また、路線の維持について今後ともご協力をお願いしたい。

議長

よろしくをお願いしたい。

J Rはどうか。

外山委員代理（J R東日本秋田支社）

秋田元気創造プランが上位の計画であるとの記載はあるものの、本計画は県の交通政策における上位の計画であると認識している。総括的な内容の中にも、具体的な記載をいただいておりますと思う。

弊社に関係する部分としてはキャッシュレス決済とM a a Sがある。特にM a a Sは少し前までは将来を見据えた施策として捉えられていたが、現在進行形の取組となっている。また、弊社では新幹線による貨物輸送なども行っており、そこにも触れていただいております。

鉄道は目的地までの大量輸送を担っている交通機関だが、車両や設備の維持に多額の費用がかかるものである。どの交通事業者も同じだが、日常的な利用が増えないと維持できない。我々も交通事業者の一つとして、他の事業者とも連携し、利用促進を含め地域の方にとってどのような交通体系が良いのかなど一緒に検討してまいりたい。まずは高等学校訪問キャラバンやトップが乗って応援D a yについて弊社としても取り組んでまいりたい。

議長

もはやバスはバス、鉄道は鉄道といった単一モードの取組だけではなんともならない状況であると認識しており、事業者や行政、利用者も含めた全体でどういった取組ができるのか追及していく必要がある。その中の重要な要素としてJ Rの取組は地域にとって不可欠であり、引き続きご協力をお願いしたい。

続いて秋田内陸縦貫鉄道はどうか。

吉田委員（秋田内陸縦貫鉄道）

（リモートの接続不通のため後で再度聞き取り）

議長

ここまで市町村と交通事業者にお聞きしたが、利用者代表を含めて様々な団体からご参加いただいている。まずは齋藤委員は観光連盟の立場でコメント等ないか。

齋藤委員（秋田県バス協会、秋田県観光連盟、羽後交通）

先ほどもご発言があったが、これだけ秋田県の人口減少が激しい中で、地元住民の努力だけで公共交通を支えていくことは難しい。全国的に見ても、観光客を取り込んで利用を増やしている事例はあるので、そういった方策を探っていくべきだろう。特に田沢湖地区などでは観光客に支えられて路線が維持できているということもあり、その可能性を探っていく必要がある。

議長

続いてP T A連合会の湊屋委員はどうか。

湊屋委員（秋田県高等学校PTA連合会）

基本目標1に関連して、高等学校訪問キャラバンについてどのように実施するかなど具体的内容をお聞きしたい。

また、自店舗の前にあるバス停で待っているお年寄りの方が、時刻表どおりに来ないので、いつ来るのか不安に思って声をかけてきたことがあった。ほかにも、冬なのに待合所がなかったり、以前はあったバス停の屋根が撤去されたりと、こういったことがバス利用に当たって不便に感じられる原因になっているのではないか。

議長

高等学校訪問キャラバンについては、どこの高校を訪問するかなどの詳細は今後検討したい。交通事業者の話を伺うと、生徒本人にアプローチするのが良い場合もあれば、お金を出す立場の保護者にアプローチするのが良い場合もあり、地域や学校により事情が異なること、また、行政や交通事業者の人手を考慮すると全ての高校を訪問することは難しいことや、高校の立地環境によっては地域公共交通の利用をこれ以上望めないことも想定されるので、実施時期や方法については関係者と話をしながらもう少し検討する必要がある。

湊屋委員（秋田県高等学校PTA連合会）

秋田北鷹高校のPTA会長をしているが、秋田内陸線を利用して通学している高校生がそれなりに多くおり、一回目のキャラバンは秋田北鷹高校でやっていただければと思う。

現実として父兄が送迎している実態が多くあり、基本目標2にあるように“乗って守る”というPRをしていかなければ益々この状況が進んでしまうと感じている。環境問題とも絡めて、地球温暖化対策にも貢献できるといった打ち出し方で通学時の公共交通利用をアピールするのも良いのではないかと。

議長

秋田北鷹高校を県北ブロックの第一候補になり得るということか。いずれ実施に当たっての詳細を急ぎ関係者と相談してまいりたい。

二点目の待ち合い環境整備については、費用面など難しい問題ではあるものの、本計画の中でも、わかりやすさの向上や利用環境の改善という形で重要な課題として明確に位置づけている。大きなターミナルや駅などの整備について市町村の計画で位置づけられているものについて本計画でも取り上げているが、そうではない箇所の整備をどうしていくかは大きな問題であると考えている。バスがいつ来るかわからないという点については、お持ちのスマホや拠点に設置されたデジタルサイネージなどでバスが今どこにいて何分後に来るのか視覚的にわかるような取組も県が旗振り役として進めてまいりたい。全てのバス停に屋根を付けることはなかなか難しいが、市町村の取組と相まってより良い環

境改善ができるように取り組んでまいりたい。
地域婦人団体連絡協議会の小玉委員はどうか。

小玉委員（秋田県地域婦人団体連絡協議会）

バス協会で開催したバス体験乗車会に参加したがとても良い経験であった。
“乗って守る”というのは良い言葉だと思うのでぜひ皆さんに知っていただきたい。

また、高齢者などの交通弱者にとって事業者が運行する路線バスや市町村が運行するマイタウンバスは生活の足となっており、市町村の財政が厳しい状況において国や県の補助の継続をぜひお願いしたい。

秋田－五城目間のバスなど特に冬は遅れることがあり、バス停で待っていても本当に来るのだろうかと思うこともあるが、なんとかならないだろうか。バス事業者で途中で運行を打ち切るようなことはあるのだろうか。利用者はなぜ遅れているのかわからないため、バス会社が別車両で運行状況を確認して回るなどの工夫が必要ではないか。

議長

まず、一点目の体験乗車会はテレビでも取り上げられていたが、バスの安全性や良さを知っていただく良い機会であるため、バス協会でもこのような取組をさらに広めていただきたいと考える。

小玉委員（秋田県地域婦人団体連絡協議会）

先日潟上市で実施している利用者アンケート調査が送られてきた。利用者が少なくても必要だと感じている利用者のために路線を維持してほしいと回答しようと思うが、そういった意味でも国や県の支援は必要であり、ぜひお願いしたい。

議長

可能な限りしっかり支えられるように県はもちろんのこと、国にも働きかけてまいりたい。

三点目のバスの遅延について、バスが今どこにいないという点については、現在秋田市でバスロケーションシステムの構築に取り組んでおり、また県全体としても来年以降進めてまいりたいと考えている。

降雪による遅れの解消は難しいとは思いますが、バス事業者からコメント等ないか。

齋藤委員（秋田県バス協会、秋田県観光連盟、羽後交通）

運行の遅れについては大変申し訳なく思っている。運行状況は日によってかなり異なるため、お客様にお知らせすることが難しい場合がある。横手市では

昨冬大雪により道路が通行止めとなり途中で運行を打ち切った例もあったが、そうでない限りはどんなに遅れても終点まで運行する。昨冬は、雪のせいでの数が多いが運休となったが、バス会社だけでは対応することは難しい状況であった。道路等状況を偵察する車両の運行というご意見もいただいたが、バス以外の車も動けないため、なかなか近づけない状況であった。こういった場合は電話などで営業所と連絡を取りながら対応するほかない。ご迷惑をお掛けし申し訳ないがご理解いただきたい。

議長

続いて身体障害者福祉協会の伊藤委員はどうか。

伊藤委員（秋田県身体障害者福祉協会）

着実な計画実施のためにも、県職員に率先して公共交通機関を利用していただきたい。行政側がやれることを積極的・主体的にしっかりやっていかなければなかなか一般には広まっていかないと思う。

先ほど湊屋委員からも意見が出されたが、バスの待合所の環境の改善についてもしっかり進めていただきたい。

議長

一点目について、やれるところからしっかりやっていくというご指摘はまさにそのとおりであり、しっかり取り組んでまいりたい。

二点目の利用環境については、各市町村や交通事業者の状況も踏まえながらということになるが、本計画にしっかり位置づけたところであり、市町村の会議や交通事業者との協議の中でそれが促されるようにしてまいりたい。

伊藤委員（秋田県身体障害者福祉協会）

もう一点、車いすの方がバスに不自由なく乗車できるようにしていただきたい。費用も掛かり、新車購入はなかなか難しいとは思いますが、是非やっていただきたい。

議長

バリアフリー化は重要であると認識している。バリアフリー対応の車両の導入については、委員がおっしゃったように新車購入など費用が絡む話でありまとめて入れ換えることは難しく、また積雪地に対応した車両が少ないということも聞き及んでいるが、可能な限り障害をお持ちの方が使いやすい公共交通にしていくことは、行政及び交通事業者にも課せられている責務であると認識しており、連携して取り組んでまいりたい。

今の点交通事業者から補足等ないか。（なしとの反応）

続いて、まちづくりの観点から県都市計画課の伊勢委員はどうか。

伊勢委員（県都市計画課）

市町村では、人口減少の中であって、徐々に空き家が増え人口密度が低下し、様々な面で利便性も低下していってしまう。そういった事情について住民の皆様にも理解していただくことが重要な取組と考えている。公共交通も利便性低下の一つの要因となってくるが、利用者の方がそういった事情を理解し、乗って守るという意識の醸成につなげていくという取組は、地道で長いスパンではあるが非常に重要であると考えている。

議長

まちづくりとの連携は重要な視点であるが、これまでなかなかできてこなかった部分である。今後まちづくりとも連携し様々な取組を前進させていければと考えている。

秋田運輸支局はどうか。

玉田委員（秋田運輸支局）

計画には利用者、交通事業者そして行政の取組がバランス良く盛り込まれている印象を受けた。今後は、いろいろな取組を基本目標にいかにつなげていけるかが重要となってくる。利用者、事業者そして行政が力を合わせてこの目標を達成できるようにしていかなければならない。

また、喫緊の課題である人材不足について計画に位置づけていただき心強く感じている。今後とも協力をお願いしたい。

議長

秋田内陸縦貫鉄道の吉田委員はいかがか。

吉田委員（秋田内陸縦貫鉄道）

計画期間の5年間で事業を取り巻く環境がどれほど変化していくのか不安に感じている。利用促進については、交通事業者としていかに利用しやすい環境を作っていくか、自治体と連携しながら進めていかなければならないと思いを新たにしたところである。ロケーションシステムやデジタルサイネージなど新たな技術も費用対効果も見極めながら検討してまいりたい。

秋田内陸線と並行している国道105号線の大覚野峠について、国の直轄事業として調査が始まり、道路の高規格化が進むものと考えている。道路が整備されれば鉄道の利用が減るのではないかと懸念もあるが、自分はむしろ逆だと考えている。地域全体がシームレスに繋がることで鉄道利用も増え、地域全体の活気にも繋がると考えており、早期に事業環境が整うことを期待している。

そういった将来像も見据えながら、秋田内陸線の北側の大館能代空港では空路と、南側の角館駅では新幹線に接続する結節点として、まだまだ可能性があ

と考えており、皆様と連携を取りながら進めてまいりたい。

日野委員（秋田大学大学院理工学研究科）

計画自体に意見はないが、計画をどう実行するかが一番重要である。それにはどういう体制、どういう順番で進めていくのかなどどう実行していくのかこれからまた考えていく必要がある。

議長

これまで計画の策定に注力してきたが、委員ご指摘のとおりどのように実行していくかについて検討してまいりたい。

ほかにないか。（なしとの反応）

以上ないようなので案について現時点として了承いただいたということで良いか。（然りとの反応）

《リモートの接続不通のため会議終了後に別途聞き取り》

佐藤委員代理（秋田県ハイヤー協会）

- ・計画の内容から、「地域に公共交通は必要」という意気込みが読み取れる。
- ・「乗って守る」の意識の醸成は大賛成であるが、「地域公共交通にアクセスできない人を可能な限り減らし、“乗れる環境”を創る」という文言の一部分を取り上げられると、よりきめ細かなサービスの提供を求められるのではないかと心配される。
- ・きめ細かなサービス提供には人員（乗務員）が必要となるが、現在は人材不足である。玉田委員なども発言していたがリクルートが課題である。過去には秋田市交通局があったが、都バスなどのように乗務員の身分が公務員となれば応募が増えるのではないか。
- ・中心市街地に自家用車で来店する方には大型店から駐車料金（秋田市公営駐車場など）の補助があるが、公共交通（バス・タクシー）を利用した方には補助がない。

4 その他
特になし

5 閉 会